

3. 教育活動

第8回夏季全国医学生離島実習

実習 目標

離島医療の現場を体験し、
地域医療のロールモデルの1つとして、
離島医療体制と現場における
医師の役割を学習する。

- 1：離島医療現場における診療体制を見学する
- 2：離島医療現場におけるプライマリ・ケアを見学する
- 3：離島医療現場における保健・福祉活動を体験する
- 4：離島医療現場における全人的医療について考える
- 5：医師以外の職種の役割について考える

対象

全国の医学部生 4・5・6年生対象

成果発表

平成27年8月7日(金)に奄美大島(鹿児島県立大島病院)に集まり、シンポジウム形式で発表し、お互いに情報交換する。

(実習先で体験したことを紹介し、離島医療の魅力について発表する。)

(各班の診療所での共通点・相違点について討論し、離島医療への理解を深める。)

後日、実習の感想を1200字程度でまとめてe-mailで提出する。

実習期間

平成27年8月1日(土)～8月8日(土)

指導教員

大脇 哲洋

(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野/離島へき地医療人育成センター 教授)

根路銘 安仁

(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野/離島へき地医療人育成センター 准教授)

網谷 真理恵

(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野/離島へき地医療人育成センター 特任助教)

奄美大島(瀬戸内町へき地診療所)コース

池上 侃(防衛医科大学5年)

普段あまり学ぶことのできない離島へき地での医療を自分の目で見ることで、地域医療への理解を深めたいです。

また、全国からやってくる医学部の仲間達との交流を深められることができればと思います。

丹羽 弘高(近畿大学5年)

私の住む福井県は、最近地域医療に力を入れています。将来、私は地域医療に従事したいと考えており、今回の離島実習ではこれに通ずるものがあると思います。

大学のクリニックでは体験することのできない、限られた環境での医療を見たいと思います。

松本 奈津美(秋田大学4年)

離島医療の雰囲気を感じ取り、離島医療を支える仕組みを知りたいです。

できれば、巡回診療にご同行させて頂けると嬉しいです。

奄美大島(住用診療所)コース

鄒 明憲(金沢大学5年)

現地の医師の往診に参加する。

現地の住民と交流したい。

島の自然を楽しむ。(特に海に入りたい)

多賀谷 亮甫(埼玉医科大学5年)

離島という特殊な環境下での地域医療。

離島医療に携わる医者の実生活実態。

地域住民とのコミュニケーション。

奄美大島の大自然。

小松崎 早子(新潟大学4年)

訪れたことのない(離島という)場所にある、地域性や住人のあり方、価値観など医療を通して見たいです。

そして、各地から来た同じ医学を志す仲間たちと意見を共有し合い、そこでの化学反応で生まれたものを、また今後の自分の人生の糧にしていきたいです。

徳之島(宮上病院)コース

岡本 亮(鳥取大学5年)

私は将来救急医になりたいと考えているので、今回の実習では離島における救急医療の対応、本土への搬送判断など、離島ならではの救急対応を見たいと思っています。

また、隠岐の島で病院見学をさせていただいたこともあるので、隠岐の島との医療事情の違いも見つけられればと思います。

関井 隆介(横浜市立大学5年)

今回の離島実習では島ならではの人と人のつながりや、その中での医師や医療従事者の役割、立ち位置などを勉強したいと思います。

また、南の島ならではのアクティビティや体験もしてみたいので、そういったものには積極的に参加したいです。奄美地方の名物や名産品が食べられることも楽しみにしています。

岸 愛奈(東邦大学4年)

離島という周囲と比較的離断されている環境で行われている医療、特に住民の方々との関わり方を知り、地域に根ざした医療というものを五感で経験したいです。

沖永良部島(朝戸医院)コース

若槻 卓成(島根大学5年)

島の文化や産業、居住環境など住民さんの普段の様子や島自体がわかる体験をしてみたいです。

(例えば、さとうきび農業体験や漁、町の散策など)

また、医療関係者に限らず、一緒に行っている取り組みなどあればそちらも見てみたいです。

よろしくお願いします。

長友 美佳(宮崎大学5年)

患者さんと医療スタッフとの距離が近く、温かみのある島ならではの医療を肌身を持って実感したい。また、たくさんの方々との接し、多くのことを経験し、沖永良部島の良さをたくさん吸収して帰りたい。

高橋 聖彦(埼玉医科大学4年)

離島に勤務する医師の働き方を見たいです。

限られた機材の中で求められる知識や経験がどのようなことがあるのか学びたいと思います。

木村 堯(東京医科大学4年)

大学の实習では得られない貴重な経験ができると思い応募しました。離島での医療と本当(都市部)の医療との差異をしっかりとみてみたいと思います。

また、島で暮らす人々の生活の仕方や文化にも触れてみたいと思います。

全国から集まる学生と交流できることも楽しみです。

沖永良部島(大蔵医院)コース

木村 堯(東京医科大学4年)

大学の実習では得られない貴重な経験ができると思い応募しました。離島での医療と本当(都市部)の医療との差異をしっかりとみたいと思います。

また、島で暮らす人々の生活の仕方や文化にも触れてみたいと思います。

全国から集まる学生と交流できることも楽しみです。

水崎 徹太(群馬大学4年)

離島という特殊な環境で行われる医療を身近で見たいです。どのような苦労があって、どのようなことに気を使うのか。5年生で履修する病院実習とは違う経験ができればと思います。

楽しく、真面目に、しっかりと何かを掴んで帰りたいです。

向田 凧沙(東京慈恵会医科大学4年)

いわゆる僻地医療というのは、実際どういう医療形態なのか。

また、患者さんと医師との関係は大学病院における関係性と違いがあるのか、どのような違いなのか。

あ

ま

み



お

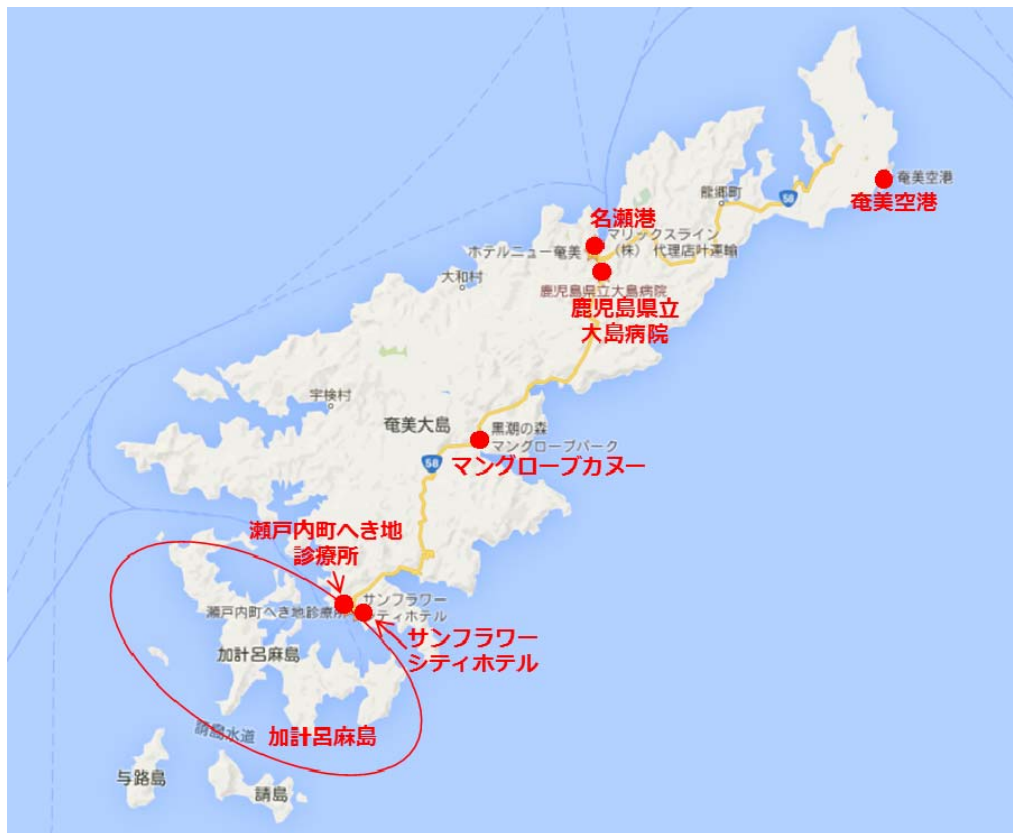
お

し

ま



奄美大島1(瀬戸内班)コース

Map





Member List



  くわばら かずよ
桑原 和代
慶應義塾大学衛生学公衆衛生学教室
鹿児島大学国際離島医療学分野

  いけがみ かん
池上 侃
防衛医科大学 5年生

  にわ ひろたか
丹波 弘高
近畿大学 5年生

  まつもと なつみ
松本 奈津美
秋田大学 4年生

連絡先

桑原和代 (携帯) 090-2086-1494
(メール) k9747613@gmail.com

離島へき地医療人育成センター
(電話) 099-275-6898
(メール) ecdr-office@umin.ac.jp

瀬戸内町へき地診療所



診療所外観



所長 花輪宏明 先生



亀山学 先生

実習施設情報

所在地	〒894-1510 大島郡瀬戸内町古仁屋瀬久井西13-2
施設長	花輪 宏明
実習担当者	名前 : 事務長 松本 連絡先 : 0997-72-3211
診療科目	内科、外科、小児科
診療時間	8:30~12:00/14:00~17:00 土・日・祝・年末年始は休診
病床数	19床
スタッフ	医師2名、看護師15名、放射線技師1人、事務8人、看護助手3人、調理員4人
設備	心電図、人工呼吸器、エコー、レントゲン、CT、生化学分析装置、全自動血算器、呼吸機能検査装置、血ガス分析器、Holter心電計、上下部内視鏡検査装置
所長からのメッセージ	へき地の診療所であっても都会の総合病院であっても基本的な考えは同じで、「自分がしてもらいたいことを患者さんにも提供する」ということです。自分や自分の身内と思って検査、診断、治療、説明、紹介などするように心がけること。 そうすることで医師として人として成長するのではと思いつつ、私自身日々努力しているところです。なかなか容易にはできませんが……。

実習施設の特徴・実習内容

自治医大卒の医師（内科系1人、外科系1人）計2人で診療しています。通常1人が診療所で外来診療（胃・大腸内視鏡、各種超音波検査も含む）や各種検診、入院患者（19床）の管理を担当し、もう1人が巡回診療をしています。いわゆる「町のお医者さん」として赤ちゃんからお年寄りまで、慢性期疾患から救急疾患（応急処置、必要に応じて搬送）まで特殊な疾患を除いたほぼすべての治療に携われることが魅力的です。巡回診療では主に慢性疾患の管理が中心となりますが、巡回バスという全国でも珍しい形態で診療を行っています。

是非一度体験して下さい。

Schedule



8/1(土)

14:00

ホテルタイセイアネックス(2号館Aホール) 集合

オリエンテーション開始

事務手続きをして、班ごとに着席

(旅費の徴収・領収書発行、誓約書、保険の説明・料金徴収)

実習説明

自己紹介(1人3分程度)

デジタルカメラの貸出

全体写真撮影

16:00

夕食・朝食の買い出し

16:30

貸切バスで鹿児島新港へ移動

18:00

鹿児島新港発(フェリーで移動)

～船中泊～



8/2(日)

05:00

名瀬港着

地域診断実習開始

観光の時間です！

実習前に観光地などを調べて、

訪れてみたい場所を考えておくとスムーズに進みます。

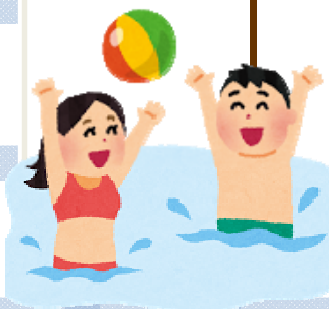
遠慮せずどんどん意見を挙げてください！

綺麗な海は必須ではないでしょうか。

天候に左右される実習ですので、晴れのを機会を逃さないよう

海水浴は先にしていた方が良いでしょう。

～サンフラワーシティホテル 泊～



8/3(月)

午前

瀬戸内町役場の健康教室見学

瀬戸内町が行っている健康教室事業を体験・見学します。
今回参加するのは、「きゅら島こつこつ教室」というメタボリックシンドローム対策の運動教室です。

午後

瀬戸内町へき地診療所にて実習

実習先の詳しい情報は別頁に掲載。

～サンフラワーシティホテル 泊～

8/4(火)

08:30

加計呂麻島巡回診療

船に乗って加計呂麻島まで渡り、バスで巡回診療を行います。

瀬戸内町へき地診療所にて実習

～サンフラワーシティホテル 泊～



移動に協力してくださっている船



移動中の様子



巡回診療車

8/5(水)

08:30

加計呂麻島巡回診療

船に乗って加計呂麻島まで渡り、バスで巡回診療を行います。

瀬戸内町へき地診療所にて実習

～サンフラワーシティホテル 泊～

※実習日程・内容は変更になる場合もあります。

8/6(木)

地域診断実習

10:00

マングローブカヌー

ガイドさんがついて、マングローブをカヌーで進んでいきます。マングローブやそこに住む生き物たちの様子が観察できます。

カヌーの後の観光は各班ごとに考えてください。
引率の先生方は奄美大島をよくご存じなので、オススメを聞くのもあります！

21:00

沖永良部コース、徳之島コースと合流

報告会準備（鹿児島県立大島病院にて）

～ホテルニュー奄美泊～



8/7(金)

08:30

ホテルニュー奄美発

貸切バスで鹿児島県立大島病院へ移動

09:00

報告会

場所：鹿児島県立大島病院会議室

時間：各班の報告20分、全体討論30～60分

12:00

地域診断実習

奄美大島北部を中心に観光します。
詳しくは前頁に掲載。

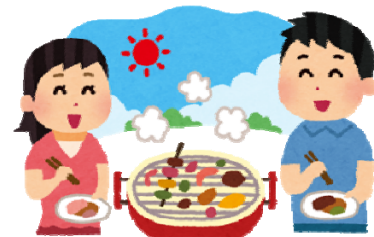
18:00

バーベキュー（ばしゃ山村）

21:00

バーベキュー終了予定

～ホテルニュー奄美泊～



8/8(土)

08:00

ホテルニュー奄美にて解散

朝から自由行動。

奄美を満喫するもよし！

その他の離島や沖縄に足をのぼしてみるもよし！



実習後の感想



「離島実習を終えて」

奄美大島(瀬戸内班)コース:防衛医科大学5年 池上 侃

「離島医療」と聞いて思い浮かべるのはどのようなことでしょうか。海に囲まれた人里離れた診療所での診察、船での移動による訪問診療、ドクターヘリでの救急患者さんの搬送…そのどれもが僕にとっては想像上の医療でしかなく、その実際というものが全く想像することができていませんでした。

私の在学する防衛医科大学は自衛隊医官(いわゆる自衛隊の医者)を養成する学校です。自衛隊の基地や駐屯地は全国各地様々な場所にあり、どこに派遣されるかは自分の意思で選ぶことができません。その中には与那国島や硫黄島など離島にある基地も含まれており、今回実習で訪れた奄美大島にも数年後に基地ができる予定になっています。しかしながら、カリキュラム上そのような離島の基地を訪れることはあっても医療の実際を目にすることはできませんでした。将来離島および地域医療に従事する可能性が非常に高いにも関わらず、そんな時たまたま校内で見かけたポスターに惹かれ本実習に応募することに決意しました。

私は今回、奄美大島の最南端の瀬戸内町という人口9000人ほどの小さな町の、「瀬戸内町へき地診療所」での実習に参加させていただきました。診療所での実習や役場での地域医療促進についての見学、地元の保健師さんによる地域および地域医療の説明、巡回診療車による島の往診など普段することのできない貴重な経験をたくさんさせて頂きました。

特に巡回診療車実習は船で瀬戸内町からすぐの加計呂麻島(人口1000人ほどのとても綺麗な島です)まで船で移動したのちに先生と一緒に島を巡るというもので、とても興味深くそして楽しく実習をすることができました。先生方もとても優しく、血圧測定などの簡単な手技だけでなく島の患者さんの診察を実際にさせて頂いたりと盛りだくさんの内容でした。また、訪問診療の様子も見学させていただき地域医療での医師と患者さんとの距離の近さを身をもって感じる事ができました。

さらに「地域医療を知る上で観光をもって地域を知ることが何よりも大事」という先生方の教え通りたくさん場所を観光させていただきました。奄美大島の豊かな自然と青く澄んだビーチ、マングローブ原生林でのカヌーや黒糖焼酎の醸造見学、夜は島の豊かな食文化と黒糖焼酎の美味さを体感し、オンオフしっかり切り替えて楽しく実習に望むことができました。

私はこれまで出来れば将来は都市部で働きたいと考えていました。しかし今回、地域医療に明確なビジョンを持つことが出来たことでそのハードルが一気に下がったように思います。学生時代のうちにこのような貴重な機会を得ることが出来たのは良い経験になったと思います。そして何より全国の医学生との繋がりが出来たのは大きな財産となりました。

最後に、1週間引率に連れ添ってくださった桑原先生、瀬戸内町へき地診療所の花輪先生、亀山先生はじめスタッフの皆様、瀬戸内町役場の方々、他のグループの先生方、この実習を支えてくださった全ての皆様、本当にありがとうございました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

実習後の感想



「離島実習を終えて」

奄美大島(瀬戸内班)コース:近畿大学5年 丹羽 弘高

今回、2年越しの思いでやっとこの離島実習に参加することができました。最初は地域医療を見て将来の自分の仕事に通ずるものがあるのではないかと思います。参加を考えたのですが、奄美大島について調べていくうちに「奄美の人、海、食を知りたい！」とも思うようになりました。参加する他のメンバー14人はそんなことより離島医療だけを真剣に見に来ているのかもしれないと思うと不安でしたが、全員が親しみやすく自分と同じ考えで安心したのを覚えています。

実習としては期待通り、普段のクリニックでは経験できないことが経験できました。実習一日目に瀬戸内町役場で健康教室に参加し、地元の方々とお話ししながら運動しました。一週間に一度でもこういう機会を作ることは、健康増進につながる非常に大事なイベントだと感じましたし、何より参加しているおじいちゃんおばあちゃんの笑顔が印象的でした。午後は瀬戸内へき地診療所にて2時間ほどの外来見学をしました。19床の診療所は大学病院と違い、限られた設備での医療を行っていました。専門医といった垣根がなく自分で何もしなければならぬので、私の想像していた町全体のお医者さんそのものでした。自分も将来はこんな医師として働きたいと感じました。そして実習二・三日目は今回の実習のメインイベントである加計呂麻島での巡回診療に同行させてもらいました。トトロに出てくるような山道をバスでくねくね行ったら透き通った海が広がる海岸線が見えたり、桑原先生となっちゃん(松本)は船とバスと暑さにやられてダウンしたりと中々経験できないことばかりでした。しかも見学するだけかと思いきや、亀山先生、花輪先生付き添いのもと血圧を測ったり、十人ほどの患者さんの診察しカルテを書いたりしました。基本的に高血圧や糖尿病の薬を渡すだけでしたが、すごく勉強になりましたし、ここでしかできない貴重な実習でした。他のグループの話聞いても瀬戸内での実習は「The 離島実習」といえるものだったと思います。

観光も思う存分できました。実習の間四日も海に入り、サンゴや海の生き物と戯れていました。海鮮丼、鶏飯、マグロの心臓、地元の居酒屋でおいしいものもたくさん食べました。そして体重も増えました… 魚屋ではまるで食べ放題かのようにマグロの切り身をふるまっていたきました。本当においしかった。11月の加計呂麻島のハーフマラソン参加できたらまた食べに行きます。

最後になりますが、引率して下さった桑原先生、鹿児島大学の先生方、事務の方々、へき地診療所の先生方町、役場のみなさん、そして今回実習に参加した14人の全国から集まった医学生のみんなに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。この繋がりは今回の実習で終わりではなく、これからも大切にしていきたいと思います。奄美大島サイコー！！

実習後の感想



「離島医療実習 感想」

奄美大島(瀬戸内班)コース:秋田大学4年 松本 奈津美

離島、離島、離島！

離島が好きで、ドクターコートに憧れていた私は、この実習の存在を知ってからずっと、参加したいと思っていました。想像の世界でしかない離島医療をこの目で確かめるため、参加させていただきました。

お世話になった瀬戸内へき地診療所では、診療所の外来のほかに巡回バスによる診療をしています。海上タクシーに乗って加計呂麻島へ。海と見える島の美しいこと！ドクターコートに彷彿とさせる光景に、胸が高まりました。

バスで診療所がそのまま移動するというのは不思議な光景です。診療は、慢性疾患の管理が中心で、診察と薬の処方をしています。島の方は、高齢でも元気な方が多かったのが印象的です。各集落を訪れるのは2週間に1回ですし、少ない器材の中ですが、問診や聴診、触診などを通して島民の方の健康を守っている様子を感じられました。これから、基本的な診療の技術をしっかり身につけていきたいと思いました。

楽しみにしていた加計呂麻島では、人生初の熱中症になりました。せっかく実習に来たのに、情けなくて悔しくて体調管理できなかった自分が恥ずかしくて、もどかしくて。でもそれも、今となってはいい思い出です。ガジュマルの木に見守られて休んだ。風が涼しくて、頭はぼーっとしていたけれど見える世界は美しかった…。こんなこと、なかなか体験できません。熱中症の辛さと同時に島の美しさを体感しました。

観光も充実しており、というよりも遊んでいた時間の方が長かったような…。この1週間はとにかく楽しくて、ずっと笑っていた気がします。毎日のように海に入り、島のおいしいものを食べて、美しい景色を見て…。島を満喫しました。思い出だけで幸福感に包まれます。

奄美大島で感じた離島医療は、イメージしていたものと少し違う部分もありましたが、医療スタッフと患者さんの距離が近く、また働いているスタッフの方々がすごく生き生きとしていたのが印象的です。島民の健康を守り暮らしに寄り添う、そんなお医者さん、やっぱりカッコいい。離島のお医者さんに対する憧れが強くなりました。

実習経験もほとんどなく、また知識もない私が、4年生の今参加することには少々不安はありましたが、このタイミングでよかったと思っています！離島医療の雰囲気を感じ取ることができましたし、5年生の先輩方からいろいろなアドバイスを頂けましたし、勉強するモチベーションが上がりましたし、何より、全国に素敵な仲間ができたことが嬉しく、また刺激になりました。きっとまた会える、つながっていけると信じています。

最後になりましたが、実習を引率してくださった桑原先生、嶽崎先生、大脇先生、根路銘先生、指宿先生をはじめ離島へき地医療人育成センターの皆様、実習先の花輪先生、亀山先生をはじめ瀬戸内へき地診療所の皆様には大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

奄美大島(瀬戸内班)コース 【良かった点・改善した方がよい点】

①ホテルタイセイアネックスでの打ち合わせ

【良かった点】

- ◆自己紹介でみんなの名前がおぼえられた。
- ◆駅から近くてありがたかった。
- ◆実習前に他のグループの参加者にも会うことができ、とても良かった。

【改善した方がよい点】

- ◆ホテルタイセイアネックスとホテルタイセイとの違いが分かりづらかった。

②行きのフェリー

【良かった点】

- ◆夜の月を見ながらみんなといろんなことを話せて仲良くなれた。
- ◆普段フェリーを使うことが無いので、いい経験になった。
- ◆他のグループ間での交流にもなって良かった。

【改善した方がよい点】

- ◆寝床が少し寝づらい。・わりと長旅なので疲れる。・早朝に着くのであまり寝れない。

③実習先(医療機関・行政機関)

【良かった点】

- ◆健康教室に参加させていただけたので、地域の方と交流できた。
- ◆保健所の方にお話を伺えたため、地域の状況が分かった。
- ◆手技や問診など色々やらせてもらった。
- ◆離島ならではの話をたくさんお聞きすることができて、とても興味深かった。

【改善した方がよい点】

- ◆巡回診療バスの冷房が故障していたのはきつかった。

④宿泊施設(各地施設)

【良かった点】

- ◆部屋がとても広く、快適だった。
- ◆冷蔵庫を使えたのが嬉しかった。

【改善した方がよい点】

- ◆コインランドリーが少し不便だった。
- ◆タバコ臭かったので、禁煙の部屋であると嬉しい。

⑤地域診断実習(観光)

【良かった点】

- ◆海、食、人すべてにおいて満足。奄美を満喫できた。
- ◆海洋資料館が面白かった。
- ◆みんなで泥染め体験をして、思い出の品ができて良かった。
- ◆マングローブは初めてだったがとても良かった。

【改善した方がよい点】

- ◆実習終了後に行ったパラグライダーがとても楽しかったので、ぜひ来年は行ってもらいたい。

⑥参加費用

【良かった点】

- ◆参加費用以上にずっと価値のある実習だった。
- ◆この値段でここまでできる実習は他にはないと思う。

【改善した方がよい点】

- ◆全て合わせると10万円くらいになったのでもう少し安くできると助かる。

⑦報告会

【良かった点】

- ◆みんなスライドがしっかりしていて良かった。
- ◆他の班がどんなことをしたのか知ることができて良かった。

【改善した方がよい点】

- ◆準備時間が少なかったのが少し大変だった。

⑧実習全般

【良かった点】

- ◆実習と観光、オンオフ切り替えて行動できたのが良かった。
- ◆全国の医学生とつながりができました！
- ◆先生方がどなたも魅力的で尊敬できる方ばかりで、素敵なお話をたくさんお伺いすることができた。

【改善した方がよい点】

- ◆台風になると飛行機は出ても船が欠航することが多いのを事前に教えておいていただきたかった。
- ◆事前にLINEグループを作っていただけで嬉しかった。



奄美大島2(住用班)コース

Map



Member List



 
おおわき てつひろ
大脇 哲洋
鹿児島大学
離島へき地医療人育成センター

 
すう あきのり
鄒 明憲
金沢大学 5年生

 
たがや りょうすけ
多賀谷 亮甫
埼玉医科大学 5年生

 
こまつぎ さやこ
小松崎 早子
新潟大学 4年生

連絡先

大脇哲洋 (携帯) 090-9569-4488
(メール) tetsuowaki@docomo.co.jp
(PCメール) towaki@m2.kufm.kagoshima-u.ac.jp

離島へき地医療人育成センター
(電話) 099-275-6898
(メール) ecdr-office@umin.ac.jp

ファミリークリニック ネリヤ



クリニック外観



院長 徳田英弘 先生

実習施設情報

所在地	〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町31番14
施設長	徳田 英弘
実習担当者	名前 : 徳田英弘 連絡先 : 0997-57-7177
診療科目	内科・小児科・脳神経内科
診療時間	月～土 8:45～11:30 (外来) 月火木金 13:30～16:30 (訪問診療) 月火木金 17:00～18:30 (外来)
病床数	なし
スタッフ	医師1、看護師6、理学療法士1、作業療法士1、事務5 (クリニック、訪問看護ステーションの合計)
設備	全身CT、エコー (心臓、腹部、表在)、単純X線、血圧脈波、骨塩定量、末梢血分析装置、呼吸機能検査装置、Holter心電計、心電計、携帯心電計、携帯エコー、携帯眼底鏡、
院長からのメッセージ	「生命(いのち)を癒し、生活(くらし)を支え、人生の最期(たびだち)まで寄り添う、」をモットーとしています。3つのLIFE (生命、生活、人生) に対応した、3つのスタンス (癒し、支え、寄り添い) を職員一同で意識しています。文末が「。」でなく、「、」であることの意味は実習で・・・

実習施設の特徴・実習内容

「プライマリケア・神経内科・在宅ケア」を中心とした医療を行っています。

外来は、0歳から100歳まで、海を渡って受診される神経難病や片頭痛の方々・・・などが主です。

訪問診療は、1日5名前後です。神経難病、末期がんなどが主体で、年間在宅看取り数は25名 (在宅看取り率90%以上) です。2014年3月の日本在宅医学会「独居の看取り」シンポジウムのシンポジストを務めました。2015年9月は、日本在宅ホスピス協会全国大会in奄美の大会長を務める予定です。

併設の「ネリヤ訪問ステーション」は、訪問看護師2.5名、訪問リハビリテーション2名が在籍しており、「生命(いのち)を癒し、生活(くらし)を支え、人生の最期(たびだち)まで寄り添う、」を実践しています。

離島でも、全国に見劣りしない医療を提供することを目指しています。学生の皆さんと一緒に学び、考えていきたいと思っております。

奄美市住用国民健康保険診療所



医院外観



所長 野崎義弘 先生

実習施設情報

所在地	〒894-1202 鹿児島県奄美市住用町西仲間111
施設長	野崎 義弘
実習担当者	名前 : 野崎義弘 連絡先 : 0997-69-2620
診療科目	内科、外科、小児科、整形外科
診療時間	9:00~12:00、14:00~17:00 (月~金) ※火曜・金曜の午後は施設回診14:00~15:30 ※木曜、金曜の午後は往診14:00~15:30 土・日・祝・年末年始は休診
病床数	なし
スタッフ	医師 1 名、看護師 2 名、事務 1 名、看護助手 1 名、管理栄養士 0 名
設備	エコー、レントゲン、透視、血圧脈波、骨塩定量、上・下部内視鏡、生化学分析装置、呼吸機能検査装置、Holter心電計、心電計、携帯心電計、携帯エコー、携帯眼底鏡、筋硬度計
所長からのメッセージ	人口約1,500名弱の町で唯一の医療機関です。楽しく継続できる医療をしていきたいと電子カルテを活用しております。実習を通してどんな医師になるかを考える材料の一つにでもなればいいと思います。また私やスタッフのために何でもいいので教えるものを持って来てください。

実習施設の特徴・実習内容

休診状態が2年ほどあり平成16年から公設民営で再開した診療所です。平成22年10月に豪雨災害で天井近くまで浸水しました。平成24年9月にも水害にあいました。

避難所では電子カルテの情報が役立ちました。平成23年から同じ所で診療再開しております。平成26年3月役場建て替えを機に役場内移転しました。外来と訪問診療、施設を中心に見ていただきます。地域に密着した診療所での日々の実際の臨床の現場を体験していただきます。診療所の面白さ、へき地の楽しさがわかっていただくといいですね。

鹿児島県立大島病院



病院全景



院長 眞田純一 先生

実習施設情報

★<http://hospital.pref.kagoshima.jp/oshima/>

所在地	〒894-0015 奄美市名瀬真名津町18番1号
施設長	眞田 純一
実習担当者	名前 : 総務課 谷川 連絡先 : 0997-52-3611(代表)
診療科目	総合内科、消化器内科、循環器内科、整形外科、眼科、精神科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、神経内科、産婦人科、歯科・口腔外科、小児科、皮膚科、放射線科、外科、消化器外科、泌尿器科、麻酔科、病理診断科、人工透析科、救急科
診療時間	受付8:30~10:00 ※詳しくはホームページ参照 土・日・祝・年末年始休診
病床数	400床 運用350床 (結核病床15、感染床4)
スタッフ	常勤医師41名、非常勤1名、研修医(管理型定員14名、鹿児島大学協力型若干名) 看護師255名、薬剤師8名、臨床検査技師12名、診療放射線技師10名、理学療法部7名、栄養士3名、事務職員17名、労務職員8名
設備	心臓血管造影装置、核医学診断装置、CT(64列)、MRI、レーザー、ガンマカメラ、リニアック、超音波診断装置、内視鏡検査装置、呼吸機能検査装置、マンモグラフィー、脳波、筋電図、ホルター心電図、APG、体外衝撃波結石粉碎装置、高圧酸素治療装置、血液透析器など
院長からのメッセージ	当院は奄美群島の中核病院であり、鹿児島本土から遠く離れているため、全ての疾患の自己完結を目指しています。一次から三次医療まで対応するため、たいへん忙しい病院ですが、その分たくさん臨床修練を積むことができます。さらに、平成26年6月に救命救急センターを開設し、奄美群島における救急医療の拠点として救命率の向上に努めているところです。一方では地域医療支援病院として、周辺の医療機関、老健、介護施設との連携にも努めています。離島医療の現状、問題点なども実感し、理解していただければと思います。

実習施設の特徴・実習内容

奄美群島における唯一の公立総合病院です。救急指定病院(救急患者数:年間約8,000例)、災害拠点病院、地域がん診療拠点病院、地域周産期母子医療センター(分娩数:年間約400例、NICU:5床)等多くの認定を受けており、地域におけるほとんどすべての疾患の、最終的な受け皿としての役割を担っています。また多くの学会の研修指定病院、そして初期臨床研修基幹型病院でもあります。実習では、研修医を含め若手の医師と行動を共にしてもらいます。また、診療科についても、学生の希望に沿ったスケジュールを立てます。救急医療については、当直医とともに夜間の前半を体験してもらいます。



8/1(土)

14:00

ホテルタイセイアネックス(2号館Aホール) 集合

オリエンテーション開始

事務手続きをして、班ごとに着席

(旅費の徴収・領収書発行、誓約書、保険の説明・料金徴収)

実習説明

自己紹介(1人3分程度)

デジタルカメラの貸出

全体写真撮影

16:00

夕食・朝食の買い出し

16:30

貸切バスで鹿児島新港へ移動

18:00

鹿児島新港発(フェリーで移動)

～船中泊～



8/2(日)

05:00

名瀬港着

地域診断実習開始

観光の時間です!

実習前に観光地などを調べて、

訪れてみたい場所を考えておくとスムーズに進みます。

遠慮せずどんどん意見を挙げてください!

綺麗な海は必須ではないでしょうか。

天候に左右される実習ですので、晴れのを機会を逃さないよう

海水浴は先にしていた方が良いでしょう。

～鹿児島県立大島病院 泊～



8/3(月)

終日

ファミリークリニック ネリヤにて実習
実習先の詳しい情報は別頁に掲載。

～鹿児島県立大島病院 泊～



8/4(火)

終日

奄美市住用国民健康保険診療所にて実習
実習先の詳しい情報は別頁に掲載。

～鹿児島県立大島病院 泊～



過去の実習の様子

8/5(水)

終日

鹿児島県立大島病院にて実習
実習先の詳しい情報は別頁に掲載。

～鹿児島県立大島病院 泊～



建物左は新設された救命救急センター



救命救急センター屋上のヘリポート

※実習日程・内容は変更になる場合もあります。

8/6(木)

地域診断実習

10:00

マングローブカヌー

ガイドさんがついて、マングローブをカヌーで進んでいきます。マングローブやそこに住む生き物たちの様子が観察できます。

カヌーの後の観光は各班ごとに考えてください。
引率の先生方は奄美大島をよくご存じなので、オススメを聞くのもあります！

21:00

沖永良部コース、徳之島コースと合流

報告会準備（鹿児島県立大島病院にて）

～ホテルニュー奄美泊～



8/7(金)

08:30

ホテルニュー奄美発

貸切バスで鹿児島県立大島病院へ移動

09:00

報告会

場所：鹿児島県立大島病院会議室

時間：各班の報告20分、全体討論30～60分

12:00

地域診断実習

奄美大島北部を中心に観光します。
詳しくは前頁に掲載。

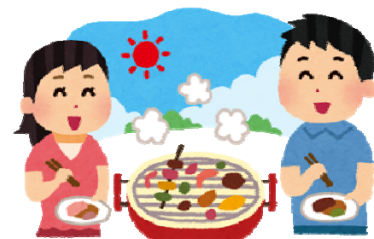
18:00

バーベキュー（ばしゃ山村）

21:00

バーベキュー終了予定

～ホテルニュー奄美泊～



8/8(土)

08:00

ホテルニュー奄美にて解散

朝から自由行動。

奄美を満喫するもよし！

その他の離島や沖縄に足をのぼしてみるもよし！





鹿児島県立大島病院 救命救急センター内 宿泊室

住所	奄美市名瀬真名津町18番1号(県立大島病院敷地内)
設備	<p>冷蔵庫(共同) ・ 洗濯機(共同) ・ 電子レンジ(共同) ・ 冷暖房 テレビ ・ ケトル ・ IHヒーター ・ インターネット可 タオル貸出あり(バスタオル、フェイスタオル) シャンプー・ボディーソープ類 ・ 洗濯洗剤 ※部屋は個室、備え付けベッドあり</p>



救命救急センター外観



宿泊室内の様子

実習後の感想



「離島実習」

奄美大島(住用班)コース:金沢大学5年 鄒 明憲

私が今回の実習に参加した理由は本当に偶然で、教室の前に貼ってあった海の写真のポスターが何となく気になったのがきっかけでした。その時に調べるまで奄美大島がどの県にあるのかも知りませんでしたが、時期が良かった事とちょうど関東の病院見学の後で人の多さに疲れていたため、離島と言う響きに何となく惹かれすぐに応募する事を決めました。

参加が決定してから同級生にポスターについて聞いてみたところ、面白い事に他の誰も気付いていませんでした。後に主催者の先生に聞いたところ、各大学にポスター掲示をお願いしているもののたいてい目立たない所に貼られるらしく、それでも目ざとく見つけて応募してくる学生はやはり変わり者が多いようです。事前のメール等のやり取りでもなんとなくその雰囲気伝わってきたので、正直どんなメンバーになるのか不安でした。しかし実際に集まってみると多少変わり者である事は確かですが、みな医療に関して高い志を持っている医学生ばかりで話もしやすく、一緒に実習をする事もとても刺激になりました。

学生だけでなく先生方も一風変わっており、またとてもフランクで様々な話を聞かせて頂きました。また医師としてだけでなく人生の先輩としても相談にも乗ってくれ、様々なアドバイスを頂きました。その話の中で記憶に残ったのが、島生まれの先生が父親から「お前の体は島の土からできているんだから、島に何かを返さなければいけない」と言われたという話でした。先祖代々島で生まれ育った人々の思いを感じて、部外者である僕にも歴史の重みが伝わる思いがしました。

実習自体に関してもたくさん学ぶ事がありました。しかし僕は今回の実習で最も心に残った事は僕と同じような考えの人が全国に結構いるという事でした。それどころかもっと変わった人もたくさんおり、その人達も体験談には驚かされるばかりでした。またそのような変わったメンバーだったため、普段だと気恥ずかしくてなかなか話せないような話も素直に話すことができ色々な意見を聞く事ができました。1週間という短い期間でしたが、様々な先生や学生、地域の人々に出会い話をする事ができ、僕自身の考え方や認識に変化をもたらしました。今後内地でメンバーと再会することを楽しみにしています。

最後にこの実習を行うにあって尽力して頂いた鹿児島大学の方々と地域の方々、そしてこのようなユニークな実習を企画して頂いた大脇先生に感謝すると共に、この実習が来年以降も続く事を期待しています。

実習後の感想



「全国医学生離島実習に参加して」

奄美大島(住用班)コース:埼玉医科大学5年 多賀谷 亮甫

今回この実習に応募させていただいた一番の目的としては、離島という特殊な環境下での医療現場を肌で感じ、医療に従事する医師の仕事環境の話を直接聞く機会を頂きたいと思ったからである。将来の医師像として地域に根付いた診療医という目標があるが、大学病院の実習カリキュラムの中では地域の診療所の役割であったり、必要としている地域の患者の声を聴く機会が少ないのが現状である。そんな時この実習の募集を知り、鹿児島島の離島という、自分の将来像とは交わりもしなかった地域の医療現場で実習することで何か得られるものがあると思い、参加を決意した。

奄美大島までの12時間という船旅は、奄美と本土との距離を実感するのに十分なものであったと同時に、ほかの地域との医療連携の難しさを考えさせられる時間となった。

初日の実習先であるファミリークリニックネリアでは、開業医としての診療の様子もさることながら、訪問診療に同行させていただき、在宅ケアにおける医師としての関わり方を見学できたことが大きな収穫であった。ネリア医院では神経難病や末期がんの患者の訪問診療が多いため、患者の病状把握や疼痛ケアだけでなく、看護する家族の健康を気遣い、労をねぎらうといった患者家族まで含めたケアを行い、信頼関係を築いていることが印象的であった。また、患者の健康状態に不安があったり、急変したりした際の対応を家族と話し合っておくことで方が一の事態にも迅速に対応できるという。身寄りのない患者に対しては訪問介護師やケアマネジャーとの連携を密にしておくことで患者の変化にいち早く対応しているとのことだったので、介護保険制度を有効活用し、多職種との連携を密に保つ努力も医師に求められるのだと感じた。

2日目は住用保険診療所を見学させていただいた。地域唯一の診療所であり、子供からお年寄りまで幅広い年齢の患者を、長期間にわたって診療できることが最大の特徴であった。水害で建て替えられ、綺麗な診療所ではあるが、十分な検査機器が揃っているわけではない中でも、日ごろから患者一人一人の身体診察をとっていれば、わずかなバイタルサインの変化でも異常に気付けることもあるという。これは患者との会話を大切に、住用の地域全体を診療している野崎医師ならではの話であった。午後には特別養護老人ホームの嘱託医としての業務に同行した。医師一人で住用の地域医療を担う重責は大変なものがあると思うが、やり方によってはその地域の住民の健康を自ら管理することも可能ということに地域医療の魅力とやりがいを感じた実習であった。

3日目は地域の2,5次病院として中核を担う県立大島病院の消化器外科を見学した。前日までとは変わって、大学病院にも引けを取らない設備と病棟が新鮮であった。本土とも沖縄本島とも離れている奄美地方では、最重症以外の症例は島の中で完結させることが必要とされるため、どんなことがあっても受け入れを断らないという医師の言葉に、離島の急性期医療を担う覚悟を感じた。午後の保健所実習では、その地域の背景にある特有の疾患であったり、野生動植物による被害があるなど、その地域によって求められる医療に差があるのだと感じた。

3日間の実習を通して奄美の1次～2,5次まで幅広い現場を見学し、奄美での医療の流れを知ることができた。

また、実習以外にも島の美味しい食事と自然を満喫させていただき、夏季休暇の有意義な時間を過ごすことができた。この実習で得た地域医療に従事する者としての心構え、覚悟、やりがいを今後の実習、そして将来への糧としたいと強く思った。

最後になりますが、参加を許可してくださいました離島へき地医療人育成センターの方々、引率して下さった大脇先生、お世話になった徳田先生、野崎先生はじめ各実習先の方々に感謝とお礼申し上げます。

実習後の感想



「離島実習感想文」

奄美大島(住用班)コース:新潟大学4年生 小松崎 早子

一言でいうと、やっぱり参加して良かった！というのが、この離島実習の感想です。

四年生になり、この夏休みにそろそろ将来の希望を考えて病院見学もしたいなあと思っていたのでこの実習は絶好のチャンスだと思い食いつきました。私が医学部を志したのは医学で病気を治療したいというよりも、医学を通して様々な人のあり方を人生かけて見ていきたいと思ったからなので、離島という特に医師と患者が有機的に関わっていきそうな場所で、その様子を自分の目で見て体で感じるができることになり、とてもわくわくしていました。そしていま実習が終わり、私は予想をはるかに超える実習の収穫物の料理と消化に忙しくまだ落ち着けません。その収穫物は大きく分けて3つあります。

まず、小さな診療所での実習で得たものです。特に往診が印象的で、医師や看護師が車で患者さんのお宅を訪問して、それぞれ家庭の状況(独居の人もいれば大家族の人もいるし、若い人もいれば100歳近い人もいる)に合わせて診療していました。ネリヤの徳田先生が患者さんを、おじい・おばあさんと親しげに呼んで雑談を交えて診療しているのを見て、なんて患者と医師の距離が近いんだ！とびっくりして嬉しくなりました。また、住用の野崎先生は診察室の画面にひとりひとりの患者さんの昔からの写真がコレクションされていて、患者と家族みたいだ！と思いました。他にも、きれいな特老や往診先にいたケアマネさん、診療所の内装、温かく接してくれた患者さん、看護師さんの話など、感動したことには枚挙にいとまがありません。とにかく彼らの間には患者-医師という他に、もっと有機的で温かい名前の関係を確認しました。

そして次に、大学病院での実習で得たもの。私は産科にお邪魔して、妊婦さんの検診を見学しました。半日しかいられませんが、まだ大学で実習も始まっていないこともあり、その時間はとても衝撃的で新鮮に感じられました。特に、離島ならではのなあ、と思ったのが、予定日が近くなるとわざと陣痛を誘発させて出産させることが多いということです。なぜなら特に病院近くに住んでいない人、奄美大島以外の小島に住む人は陣痛が来ても輸送する手段も時間もないので、予定日が近くなると病院の近くに住んでもらわなくてはならない、しかし陣痛を待っていたら宿泊費など本人の負担も増えてしまう、とういことだからです。先生は、医学的でなくて完全に社会的要因で陣痛を誘発していると話してくれました。

最後に、最も大きな収穫物。それは私自身とその他の人との繋がりで、全国から集結した同年代の医学生、鹿児島大学の先生方、実習先の先生・看護師さん、患者さんなど……。皆さんとは全員初対面でしたが、本当に素直で美しい繋がりができたなあと思います。観光も一緒にして、特に最後のバーベキューでは、奄美大島の綺麗な青い海が背景に、波のそよぐ音がBGMになり、そこに潮の香りや新鮮な食べ物もあいまって、皆が互いに美しく温かい関係を紡ぎだしていく光景は私を感動させました。五感全てが感化されて、なんだこれ！青春っばい！とお酒で酔った頭でぐるぐる考えていました。特に実習班の班員とは1週間ずっと一緒にどうなることやらと思っていましたが、不思議と気が合って最初から最後まで楽しく過ごせました。ずっと面倒を見ていただいた担当の大脇先生も知識があつてとても楽しい先生でした。この実習でできた全てのつながりを、ずっと宝物にしていきたいです。

まとめになりますが、この実習で吸収したものは一つも無駄なく自分の一部にして、これから将来医師として、一人の人間として生きていくための糧にしたいと思います。最後になりましたが、この実習を企画してくださった鹿児島大学の先生方、実習でお世話になった診療所の先生、看護師さん、患者さん、学生みんな、今回関わった全ての方に御礼申し上げます。たくさん感謝のしるしに、私もこの実習の経験を生かして未来に向かって邁進していきたいと思えます！本当にありがとうございました。

奄美大島(住用班)コース 【良かった点・改善した方が良い点】

①ホテルタイセイアネックスでの打ち合わせ

【良かった点】

- ◆簡潔で良かった。
- ◆わきあいあいとしていた。
- ◆ホテルが分かりやすい場所にあった。

【改善した方が良い点】

- ◆スーツケースなど大きい荷物をどこに預けるべきか分からなかった。

②行きのフェリー

【良かった点】

- ◆とても揺いでいたので全く揺れなかった。
- ◆月がきれいだった。
- ◆風が爽快だった。
- ◆寢床がコース別男女別だった。

【改善した方が良い点】

- ◆朝早かったのがつらかった。

③実習先(医療機関・行政機関)

【良かった点】

- ◆どの医療機関もそれぞれ特徴があり非常に興味深かった。
- ◆両診療所の皆さんがとても親切だった。
- ◆実際に患者さんを診察できた。

【改善した方が良い点】

- ◆保健所実習が、もっと快活な雰囲気であれば良かった。
- ◆休憩時間がもう少し欲しかった。

④宿泊施設(各地施設)

【良かった点】

- ◆とても新しく広かったので非常に快適だった。
- ◆キッチンがある

【改善した方が良い点】

- ◆ゴミ箱が無いのが少々不便だった。
- ◆ティッシュがない。

⑤地域診断実習(観光)

【良かった点】

- ◆様々なビーチを見ることができた。
- ◆奄美大島の観光地を網羅していて、とても楽しめた。

【改善した方がよい点】

- ◆早朝からずっと観光は体力的につらかったので、少し休憩が欲しかった。

⑥参加費用

【良かった点】

- ◆自分が想定していたより安かった。

【改善した方がよい点】

- ◆自由に使えるお金が返還されたが、それなら最初の実習費から省いて欲しかった。

⑦報告会

【良かった点】

- ◆使いやすい会議場だった。
- ◆先生も学生も質問が飛び交わせて、活気があった。

【改善した方がよい点】

- ◆準備時間が短すぎて大変だった。

⑧実習全般

【良かった点】

- ◆実習と観光が程よいバランスで構成されており、医療以外にも様々なことを学ぶことができた。
- ◆皆と仲良くなれた。
- ◆本土では体験できない体験をした。

【改善した方がよい点】

- ◆観光も含めタイトなスケジュール。
- ◆もうちょっと部屋で記録を書いたりする自分の時間がほしかった。

と

く

の



し

ま

Map



Member List



たけざき としろう
嶽崎 俊郎
鹿児島大学
離島へき地医療人育成センター



おかもと りょう
岡本 亮
鳥取大学 5年生



せきい りゅうすけ
関井 隆介
横浜市立大学 5年生



きし よしな
岸 愛奈
東邦大学 4年生

連絡先

嶽崎俊郎 (携帯) 090-1972-3912
(メール) ttakezak@ezweb.ne.jp
(PCメール) takezaki@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

離島へき地医療人育成センター
(電話) 099-275-6898
(メール) ecdr-office@umin.ac.jp

医療法人南溟会 宮上病院



診療所外観



院長 宮上寛之 先生

実習施設情報

所在地	〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町7268
施設長	宮上 寛之
実習担当者	名前 : 事務長 徳久 連絡先 : 0997-82-0002
診療科目	内科、外科、小児科、放射線科、泌尿器科、呼吸器科、消化器科
診療時間	平日 午前 9 : 00~12:00 午後 14 : 00~18:00 日曜日・祝祭日 : 休診
病床数	41 床

実習施設の特徴・実習内容

医療法人南溟会 宮上病院は、明るくリラックスした雰囲気を受診できると高齢者のみなさまにも評判です。困った事があれば、ベテラン看護師になんなりとご相談くださいませ。私どもは、親切、丁寧はもちろんのこと、正確な診療を柱として、これらの充実に真剣に取り組む事が使命だと考えております。これからも地域の皆様一人一人の健康と、幸せを見守り続けてまいります。

【関連施設】

- 介護老人保健施設「サザンコート」
- 特別養護老人ホーム「南風園」
- ケアハウス「いこいの里」



8/1(土)

14:00

ホテルタイセイアネックス(2号館Aホール) 集合

オリエンテーション開始

事務手続きをして、班ごとに着席

(旅費の徴収・領収書発行、誓約書、保険の説明・料金徴収)

実習説明

自己紹介(1人3分程度)

デジタルカメラの貸出

全体写真撮影

16:00

夕食・朝食の買い出し

16:30

貸切バスで鹿児島新港へ移動

18:00

鹿児島新港発(フェリーで移動)

～船中泊～



8/2(日)

09:10

亀徳港着

地域診断実習開始

観光の時間です！

実習前に観光地などを調べて、

訪れてみたい場所を考えておくとスムーズに進みます。

遠慮せずどんどん意見を挙げてください！

綺麗な海は必須ではないでしょうか。

天候に左右される実習ですので、晴れの機会を逃さないよう

海水浴は先にしていた方が良いでしょう。

～宮上病院 泊～



8/3(月)

午前

徳之島保健所にて実習
生きているハブが見られるかも…

午後

宮上病院にて実習
実習先の詳しい情報は別頁に掲載。



ハブ

～宮上病院 泊～



過去の実習の様子

8/4(火)

終日

宮上病院にて実習

～宮上病院 泊～



訪問診療の様子

8/5(水)

終日

宮上病院にて実習

～宮上病院 泊～



懇親会も楽しんでください

※実習日程・内容は変更になる場合もあります。

8/6(木)

地域診断実習

観光はみなさんで考えてください。
引率の先生方は徳之島をよくご存じなので、オススメを
聞くのもあります！

17:00

亀徳港発

奄美大島に向けて約3時間半の船旅です。

20:25

名瀬港着

ホテルニュー奄美にチェックイン後
奄美大島コース、沖永良部コースと合流



闘牛

21:00

報告会準備（鹿児島県立大島病院にて）

～ホテルニュー奄美 泊～

8/7(金)

08:30

ホテルニュー奄美発

貸切バスで鹿児島県立大島病院へ移動

09:00

報告会

場所：鹿児島県立大島病院会議室
時間：各班の報告20分、全体討論30～60分

12:00

地域診断実習

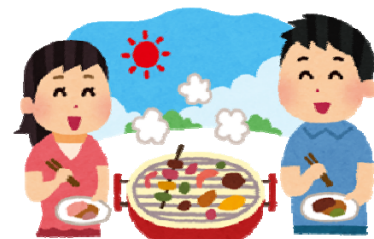
奄美大島北部を中心に観光します。
詳しくは前頁に掲載。

18:00

バーベキュー（ばしゃ山村）

21:00

バーベキュー終了予定



～ホテルニュー奄美 泊～

8/8(土)

08:00

ホテルニュー奄美にて解散

朝から自由行動。
奄美を満喫するもよし！
その他の離島や沖縄に足をのばしてみるもよし！





宮上病院 宿舎

住所	鹿児島県大島郡徳之島町亀津7268
設備	<p>ワンルームマンション</p> <p>寝具・電化製品等すべて完備されています。</p> <p>タオル・インターネット可（無線LAN）</p> <p>近くにスーパーおよび24時間営業のコンビニあり</p>



外観



室内の様子



和室(布団あり)



キッチン



調理器具(食器も完備)



お風呂

実習後の感想



「徳之島コース」

徳之島コース:鳥取大学5年 岡本 亮

今回宮上病院で離島医療について学ばせて頂きました。見学させていただいたのは主に外来と往診で、また保健所ではハブ咬傷についても学ばせて頂きました。

まず外来についてです。外来では看護師さんがまず最初に患者さんから話を聞き、先生方に振り分ける方式を取っていることに驚きました。その際、島外から初めて診療に来られた先生を患者さんに勧めておられたのも、島ならではの光景ではないかと思えます。また、徳之島の住民さんは注射と点滴が好きだと先生が言っておられたのも印象深かったです。夏場だったので余計かもしれませんが、実際、点滴室に常に人がいて途切れず、廊下の椅子で点滴を受けておられる方もいて、まるで野戦病院のような様相を呈していました。

往診については、島外からの応援の先生が往診に行かれるということが驚きでした。今までは往診に行くのは地域の病院に長くいて、継続的に患者さんを診療できる医師だというイメージが強かったので。往診先では、患者さんの奥さんやお子さんが世話をされている場合もありましたが、近所の方が手伝いに来られているお宅もあり、コミュニティの繋がりの強さを実感しました。

また、保健所ではハブの被害や対策についてお話をうかがいました。ハブの生態や毒の特性など、説明して下さったことは沢山あるのですが、中でも捕獲したハブを健康食品の業者に売る、というのが興味深かったです。

ここからは鳥取県の地域医療と、徳之島での離島医療の違いについてです。離島医療と鳥取県の地域医療とでは、それほど差はないと感じました。外来の診療、訪問診療において住民の方々との信頼関係がまず必要で、その上に診療行為が成り立っているというのは共通のものだと思います。ただ、急性期疾患に関しては本土や沖縄への搬送の手配、民間のヘリでは夜間の搬送ができない等、島特有の問題があり、よりシビアな判断能力が求められていると思います。

また、島の医療は昔から今と同じ形態だったとお話を先生方から伺い、そのおかげか中山間地域の地域医療よりも余裕があるような印象を受けました。中山間地域は既に高齢化が進み、過疎化が進行し、人材不足、しかし未だ地域医療のシステムは確立されていない。鳥取県のような中山間地域と違い、既に完成したシステムがある分、余裕があるのではないかと思います。

今回の実習を通して、離島医療は医師一人で成り立つものではなく、看護師さん、事務の方々等々、多職種が連携しなければならないということを実感しました。また同時に、離島医療、地域医療にはマネジメント能力の高い人材が求められていると感じました。宮上病院の場合だと、事務長さんのマネジメント能力がものをいっているように思います。

最後になりましたが、今回実習でお世話になった宮上病院の先生方、引率して下さった嶽崎先生、大変お世話になりました。将来何かの形でまた徳之島に来たいと思いますので、その際はどうぞよろしくお願いいたします。

実習後の感想



「離島実習レポート」

徳之島コース:横浜市立大学5年 関井 隆介

1週間の間お世話になりました。徳之島での5日間の実習とても充実した楽しい時間を過ごせました。この宮上病院での実習を通してさまざまなことが学べたと思っております。まずひとつ目は、離島での医療が施設や機材などの面においては本土との差はそれほどなく、またそれに関わるスタッフについても技術的な面では同等以上のものが得られるということです。人員の数においては確保に苦労しているとおっしゃられていましたが、宮上病院の事務の方々の努力によって日本全国のさまざまな病院から応援の先生を呼んでその日の診療を行っている姿を見て病院の運営についてもとても勉強になりました。次に、宮上病院では徳之島の伝統を守るために、島の民謡歌手の方に介護士などの資格を取っていただき宮上病院やとなりの関連施設であるサザンコートで働きながら歌手の仕事もがんばっている人がいると聞きました。島への思いがすごく伝わってきて、とてもすばらしいシステムだと思いました。また勤務されている先生もさまざまで、病院長をされている宮上先生をはじめ、定年退職を迎えてから島にいらっしゃった先生や、鹿児島と徳之島を行き来している先生、パシヤール会の活動に参加していた先生、また夏休みの期間を利用して診察にきていた先生などがいらして、いろいろな視点からお話を聞けてとても勉強になりました。宮上病院の実習では外来を見学させていただきただけでなく、訪問診療や病棟での回診、透析施設、隣にある介護老人保健施設であるサザンコートも見学させていただきそれぞれで詳しく解説していただきました。普段の実習では見られないものを見させていただき、僻地ならではの医療のあり方を学ばせていただきました。実習以外の時間でも事務長である徳久さんに観光や穴場の海水浴場を教えていただき、そこで地元の方と交流できました。また、歓迎会や海をみながらのバーベキューもおもてなししていただき、今思い返してみても楽しい思い出ばかりです。私は横浜に住んでいるので海は比較的近く身近にあるものなのですが、徳之島の海はとても澄んでいて魚もたくさん泳いでおり私の知っている海とは全く違うきれいな青い海をみることでとても感動しました。取り留めのないつたない文章になってしまいましたが鹿児島や徳之島、奄美大島ですごした1週間が忘れられないとてもすばらしいものになったことに感謝しております。この度の全国医学生離島実習を企画、運営してくださった鹿児島大学の皆様、また実習でお世話になった宮上病院の皆様に個の場をお借りして感謝いたします。また、実習中寝食を共にした徳之島グループの仲間たちや今回の離島実習に参加した他のグループの仲間たちにも恵まれたことに感謝します。1週間お世話になりましたありがとうございました。

実習後の感想



「離島実習レポート」

徳之島コース:東邦大学4年 岸 愛奈

2015年8/1~8/8に離島実習に参加させていただきました。離島で行われている医療とはどんなものだろうという好奇心と、全国から医学生が集まるということで大変興味をもちこのプログラムに応募しました。無事、参加できると分かったときは飛び跳ねるほど嬉しかったことを覚えています。待ちに待った1週間、本当に多くのことを学ぶことができました。ここでは実習で主に印象に残ったことを記していきたいと思います。

私は徳之島の宮上病院で実習をさせていただきました。実習させていただいた宮上病院は徳之島の数ある医療機関の中で中核病院として存在しています。つまり急性期の患者さんから慢性期、緩和ケアの対象となる患者さんまで幅広い診療が行われます。先生曰く宮上病院は徳之島における「最後の砦」であり、ここでの治療に限界があれば奄美大島や鹿児島島の病院への搬送を要請するという大事な役割をもっているのだそうです。実際に宮上病院にはCTやPET、搬送をマンモグラフィなどの検査機器が充実していました。また3年前には老健施設が併設され透析室も完備されています。過去のレポートから宮上病院が規模の大きい病院であることは把握していたのですが、設備の充実度は実習前の予想を超えていました。これは、前述した通り宮上病院がまさに徳之島の最後の砦であること、そして宮上病院が徳之島の医療需要に沿って成長し続けていることを表していました。実習では主に外来と訪問診療を見学させていただきました。外来では様々な問題を抱えた患者さんがいましたが専門科の隔てなく診察される先生方の手腕は見事なものでした。非常勤の先生方から「宮上病院では専門科にとらわれず様々な疾患を担当することができ力が付く」と評判だそうですが、その通りでまさに総合診療の実践の場であると思いました。1日の終わりには病院のスタッフの方々が食事会を開いてくださり、勤務時には聞くことのできないお話を聞くことができました。皆さんの医療に対する熱意と徳之島への愛情を感じ、お話を聞けば聞くほど先生方の人間性の素晴らしさを伺い知ることができました。また宮上病院で勤務されている先生の中には、月に一回の非常勤を10年以上続けていらっしゃる先生や定年を迎えてから徳之島に移住された先生もいらっしゃり多様なライフスタイルを知ることができました。他にも大学に留まっていたら知ることのできないような貴重なお話をたくさん聞くことができ、この実習に参加できた喜びを改めて感じたひとときでした。実習期間は4日間とあっという間に過ぎてしまいましたが徳之島を発つ頃にはまるで故郷を離れるような淋しさを感じました。これはひとえに徳之島の方々の温かさがそうさせてくれたのだと思います。病院の事務長さんが別れる際に「いってらっしゃい」と言ってくださったことは決して忘れません。

実習に参加させていただくにあたり他のメンバーと仲良くできるか心配でしたがそんなことは杞憂に過ぎず、医学生はもちろんのこと引率される先生方までとても優しく面白い性格の持ち主でいらっしゃいました。皆さんのおかげで何度疲れが吹き飛んだか知りませんが、全国各地の医学生と交流し多種多様な考えを聞いたことは医学のみならず人間的な面の成長においてもプラスになったと確信しています。全国の医学生にこのような経験をさせてくださる素晴らしいプログラムです。この実習で学ばせていただいたことを「よい医師」になるという志のもとに活かしていきたいと思えます。鹿児島大学離島へき地医療人育成センターの先生方、宮上病院の皆様、この実習に関わったすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

徳之島コース

【良かった点・改善した方がよい点】

①ホテルタイセイアネックスでの打ち合わせ

【良かった点】

- ◆参加者、引率の先生方や実習の準備に関わってくださった方々の自己紹介が聞けて良かった。
- ◆名札をもらったのが良かった。
- ◆船に乗る前に顔合わせできたこと。

【改善した方がよい点】

- ◆自己紹介をもっとじっくりやりたかった。
- チームの仲間と会話する時間があまりなかった。

②行きのフェリー

【良かった点】

- ◆甲板に集まって皆さんとお話しできたのが交流が深まって良かった。
- ◆皆でわいわい楽しめ、親睦を深められたこと。

【改善した方がよい点】

- ◆実習参加者で一つの部屋にまとまりたかった。

③実習先(医療機関・行政機関)

【良かった点】

- ◆実習先の方々が温かく迎えてくださった。
- ◆自由に質問できる環境だった。
- ◆先生方が懇切丁寧に説明してくださった。

【改善した方がよい点】

- ◆院長とお話しできる時間がもう少し欲しかった。
- ◆医療資源確保のためどのような取り組みをしているのか、行政の立場からお話があっても良かったのでは。特にへりに関して。

④宿泊施設(各地施設)

【良かった点】

- ◆生活用品は何でもあり、足りないものがあればすぐに揃えてくださった。
- ◆病院から歩いてすぐの距離で、近くにコンビニやスーパーがあったのでとても便利だった。
- ◆冷房がついていて快適だった。

【改善した方がよい点】

- ◆泊まる前に二人一室である旨を教えていただきたかった。
- ◆女性の部屋と男性の部屋が離れており、話し合いがしづらかったです。

⑤地域診断実習(観光)

【良かった点】

- ◆地元の方に島を案内してもらえてので見どころが分かって楽しめた。
- ◆海が素晴らしくきれいだった。
- ◆一日目に観光地をすべて回っていただきその後の計画がたてやすかった。

【改善した方がよい点】

- ◆特になし。

⑥参加費用

【良かった点】

- ◆内訳が分かって良かった。
- ◆適度な額だと思う。

【改善した方がよい点】

- ◆できれば目安としていくら持っていくのが妥当かを伝えていただきたかった。

⑦報告会

【良かった点】

- ◆それぞれのグループの色が出ていて面白く鑑賞できた。
- ◆実習先の違いも知ることができてとても有意義な時間だった。
- ◆みんなの報告が無事聞けてとても良かった。

【改善した方がよい点】

- ◆作る時間が足りなかったので発表当日の朝に確認の時間をもらえればと思った。
- ◆時間を気にして質問できなかったのが、質問の時間がもう少し欲しかった。

⑧実習全般

【良かった点】

- ◆全国の医学生や引率の先生と交流できたこと。
- ◆実習と観光を一緒にできたこと。
- ◆実習中やりたいことをやらせてもらい融通が利いた。

【改善した方がよい点】

- ◆これは反省点だが、ポリクリがまだ始まっておらず本島の病院との比較がちゃんとできなかったのが、事前に本島の病院を知る努力をするべきだった。

おきの



えらぶじま

沖永良部島1(朝戸班)コース

Map



Member List



ねろめ やすひと
根路銘 安仁
鹿児島大学
離島へき地医療人育成センター

わかつき たかなり
若槻 卓成
島根大学 5年生

ながとも みか
長友 美佳
宮崎大学 5年生

たかはし きよひこ
高橋 聖彦
埼玉医科大学 4年生

連絡先

根路銘安仁 (携帯1) 090-2088-2977
(携帯2) 080-3375-9103
(メール) neromekufm@gmail.com
(PCメール) nerome@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

離島へき地医療人育成センター
(電話) 099-275-6898
(メール) ecdr-office@umin.ac.jp

医療法人 朝戸医院



医院外観



院長 朝戸末男 先生



副院長 朝戸俊行 先生

実習施設情報

所在地	〒891-9112 鹿児島県大島郡和泊町和泊14番地
施設長	朝戸 末男
実習担当者	名前 : 朝戸末男、朝戸俊行 連絡先 : 0997-92-113
診療科目	内科、消化器科、外科、整形外科、眼科
診療時間	平日 午前9:00 ~午後12:30、午後2:00~午後3:30 土曜 午前9:00 ~午後12:30 休診 土曜午後、日曜、祝祭日
病床数	19床
スタッフ	医師2名（プラス前期研修医1名）、看護師10名、理学療法士2名（ほか）
設備	ECG、内視鏡（上部、下部消化管）、エコー（腹部、心臓、表在兼用）、64列CT、CR、Holter_ECG、マンモグラフィ撮影装置、遠隔画像診断システム、 通所リハ、居宅介護支援 等
院長からのメッセージ	外科系有床診療所です。離島とはいえ地理的ハンディを除けば本土の医療機関と変わらない医療ができると思います。介護保険を含めて地域に根ざした自己完結的な医療を目指していますが人口7000名の地域コミュニティで殆どすべての患者、家族が顔見知りであり家庭医としてはやりがいがあります。離島医療の厳しさだけでなく一開業医としての楽しさも体感していただきたいです。

実習施設の特徴・実習内容

昭和57年10月外科系有床診療所として開設。腹部外科、骨折、交通外傷等島内唯一の外科診療所としていろいろな外科、整形外科的疾患に対応してきました。地域のニーズの多様化により最近では高齢者医療、介護保険事業のほか平成18年から鹿大眼科医局より医師派遣を得て眼科診療も行っています。また離島診療というハンディの克服にIT技術を応用する試みを行っており院内LAN構築、画像、診療データのデジタルファイリング、放射線科専門医による遠隔画像診断システムの導入、また高速通信回線を利用したリアルタイム映像送受信による遠隔診療の実験などを行っています。

この実習を通じて第一線の開業医の医療活動を見ていただき、家庭医療、地域医療について考える機会となれば幸いです。



8/1(土)

14:00

ホテルタイセイアネックス(2号館Aホール) 集合

オリエンテーション開始

事務手続きをして、班ごとに着席

(旅費の徴収・領収書発行、誓約書、保険の説明・料金徴収)

実習説明

自己紹介(1人3分程度)

デジタルカメラの貸出

全体写真撮影

16:00

夕食・朝食の買い出し

16:30

貸切バスで鹿児島新港へ移動

18:00

鹿児島新港発(フェリーで移動)

～船中泊～



8/2(日)

11:30

和泊港着

地域診断実習開始

観光の時間です！

実習前に観光地などを調べて、

訪れてみたい場所を考えておくとスムーズに進みます。

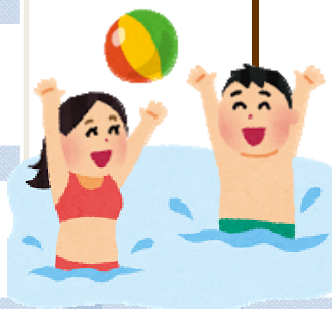
遠慮せずどんどん意見を挙げてください！

綺麗な海は必須ではないでしょうか。

天候に左右される実習ですので、晴れの機会を逃さないよう

海水浴は先にしていた方が良いでしょう。

～朝戸医院 泊～



8/3(月)

終日

朝戸医院にて実習

実習先の詳しい情報は別頁に掲載。

～朝戸医院 泊～



過去の実習の様子

8/4(火)

終日

朝戸医院にて実習

～朝戸医院 泊～



過去の実習の様子

8/5(水)

終日

朝戸医院にて実習

～朝戸医院 泊～



※実習日程・内容は変更になる場合もあります。

空いた時間には
島も堪能してください

8/6(木)

地域診断実習

観光はみなさんで考えてください。
引率の先生方は沖永良部をよくご存じなので、オススメを聞くのもあります！

14 : 30

和泊港発

奄美大島に向けて約6時間の船旅です。

20 : 25

名瀬港着

ホテルニュー奄美にチェックイン後
奄美大島コース、徳之島コースと合流

21 : 00

報告会準備（鹿児島県立大島病院にて）



ケイビング(洞窟探検)

～ホテルニュー奄美 泊～

8/7(金)

08 : 30

ホテルニュー奄美発

貸切バスで鹿児島県立大島病院へ移動

09 : 00

報告会

場所：鹿児島県立大島病院会議室
時間：各班の報告20分、全体討論30～60分

12 : 00

地域診断実習

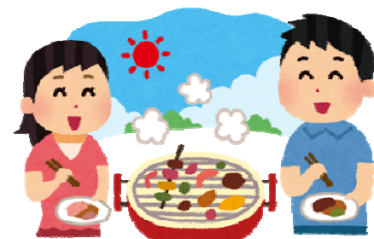
奄美大島北部を中心に観光します。
詳しくは前頁に掲載。

18 : 00

バーベキュー（ばしゃ山村）

21 : 00

バーベキュー終了予定



～ホテルニュー奄美 泊～

8/8(土)

08 : 00

ホテルニュー奄美にて解散

朝から自由行動。
奄美を満喫するもよし！
その他の離島や沖縄に足をのばしてみるもよし！





朝戸医院内 和室、院長室兼用医局

住所	鹿児島県大島郡和泊町和泊14(朝戸医院内)
設備	<p>朝戸医院で宿泊させていただきます。 男性は和室、女性は院長室兼用医局に宿泊予定です。 家電設備等はそろっておりますが、 身の回り品（シャンプー・リンス・ボディーソープ・フェイスタオル・バスタオル・歯ブラシ・かみそり）等は各自持参してください。 ※インターネット可(LAN、無線LAN) ※和室には布団あり ※院長室兼用医局には簡易ベッドあり</p>



朝戸医院 和室



院内食もいただけます

実習後の感想



「離島実習感想レポート」

沖永良部島(朝戸班)コース:島根大学5年 若槻 卓成

自分はプライマリケアから終末期医療、リハビリ、健康増進、病気の予防活動まで幅広く住民さんに関わるような医療がしたいと思っています。陸続きの本土とは異なり、島という環境はそれらがうまく回っていないと成り立たないのではないかと思ったのが今回の離島実習に参加したきっかけです。

朝戸医院の先生方は、救急車も受け入れ、外来、入院の受け入れ、グループホームへの往診、通所リハビリ、検診への呼びかけ、タラソの運営…医療・福祉に関する多くのことに朝戸医院は関わっていました。私の住む島根ではそれらを異なる施設や部署が行っていますが、朝戸医院はそれを1つの病院が行うことで、医院がある地域の医療を守っていました。

1つの医院でここまでできるのだから、医師不足が深刻な島根でも、病院同士や行政の繋がりがもっと強くなれば今よりもっと住民さんの健康を守ることができると思いました。

また、孫がおばあちゃんの付き添いで病院に来ている様子や、患者さんがみんな集まって朝食を食べている様子、リハビリに来るだけでなく友人との交流を求めて通所する患者さんを見て、医療者以外の人でも他人の健康を支えているのだと実感しました。

それも島の人間関係の強さ、文化が影響しているように思います。医療をしていく上でその土地の人間関係や文化、教育、経済…など医療以外のことも大切なのだということに改めて気が付きました。

先ほど、病院同士の連携といいましたが、医療職以外の人々と一緒に、その土地の社会を創っていくことが必要なのではないかと壮大なことを考えています。将来は、そのような働き方ができればと思います。

沖永良部島では、離島の医療現場、美しい海、ウミガメの観察、ダイナミックな鍾乳洞探索、神秘的なケービング…と多くのことを経験しましたが、今回の実習で一番の体験は人との出会いです。朝戸末男先生と俊行先生の、患者さんが幸せにその土地で暮らせるように地域を医療という面から創っておられるお姿は、地域医療を志す私のロールモデルとして感銘を受けましたし、引率の根路銘先生には将来やりたいこととして言語化できずにいてモヤモヤしていたことへのアドバイスをいただきました。そして、実習班のみんなとは、夜中まで今までのことや将来のことなどたくさん語り合いました。みんなバックグラウンドは違いましたが、それぞれが将来に対して真剣に考えていてとても刺激になりました。

このご縁を大切にしながら、これからも様々な経験をして地域で活躍できる医療者になりたいです。

実習後の感想



「離島実習レポート」

沖永良部島(朝戸班)コース:宮崎大学5年 長友 美佳

全国の活気溢れる、やる気に満ちた医学生たちと交流を持つことが出来、自分にとってとてもプラスとなる経験が出来た。自分にはない考え方をもった人たちと話すことで、自分の将来について深く考えることが出来、またこれから更なる努力を積み重ね、自分の理想とする医師を目指して自分磨きを突き進めていこうと感じた。沖永良部島の実習では、設備や医療スタッフ等の充実性に意外性を感じた。実際に現地に行くまでは、人手不足プラス設備の乏しさにより、かなりの困難を要している医療イコール離島医療という勝手な偏見を抱いていた。しかし、現実とのギャップはかなり大きく、人と人の距離が密接で温かい医療を行っている沖永良部島の医療に更なる魅力を感じた。

実際に現地で働いている方たちは、住民たちからの期待や信頼を大いに背負い、やる気に満ち溢れた眼差しであった。将来どこで働くにせよ、私も人々から信頼を寄せられる、また何でも気軽に相談してもらえる医師を目指して努力していこうと思った。

実習後の感想



「離島実習レポート」

沖永良部島(朝戸班)コース:埼玉医科大学4年 高橋 聖彦

今回、沖永良部島の朝戸医院を見学させていただき、実習後の離島の医療のイメージが多く変わりました。

第一に、離島では思ったよりも医療機器が整備されていたことです。CTやマンモグラフィ、内視鏡、眼底検査や視力検査などの眼科診察に必要なものなど様々なものが病院にはそろっていました。その他にも診察室にあるパソコンで遠隔医療が行われているのを目の当たりにしました。

第二に、沖永良部島と沖縄や九州との連携です。マンモグラフィで乳がんが発見された患者さんは、九州の相良病院で手術を行い、化学療法をはじめ、維持期になったら沖永良部島に帰って治療します。また、週に一回鹿児島大学から眼科の先生が派遣されるので、緑内障や白内障の患者さんの視力や視野検査と眼圧を平日に行い、土曜日の診察の時に先生に診てもらったりしていました。

第三に、柔軟に創意工夫し、患者さんや老人ホームの利用者さんの生活しづらさを減らす努力を怠らないことの重要さです。デイケアでも、エアロバイクでは自転車をまたがるという動作が難しい方に、車いすからすぐに移動できるような足ふみの道具があったりしました。その他にも、老人ホームを見学した際に、夜中だけトイレの横に取り外し可能な木のトイレを付けていました。トイレに行く前に漏らしてしまって恥ずかしい思いをさせないようにと、転倒防止のためと伺いました。

第四に、訪問診療が少ないことです。患者さんから要望があれば実施するということでしたが、通所が多く介護サービスが充実しているため、訪問診療しなくても老人ホームに行った際に先生が診察したりしているということでした。その時に伺った老人ホームが家で使っていたものを持ち込んだり、家具を持ち込んだりしていました。

第五に、離島に限らず地域医療で重要なことは予防を徹底することと、その意義を理解するために教育が重要です。沖永良部島は周辺の島々に比べて住民の年取が高いと聞きました。しっかりとした生活を送ることで、余裕が生まれ教育に力を注ぎ、教育を受けた方は、医療の説明を聞いた時に服薬や予防の重要性を理解し、実践することで病気になる確率を大幅に減らすことができます。がん検診の受診率が上がることで、癌が早期発見されれば、早い段階で治療が開始できます。実際和泊町では、がん検診受診率が50%を超えているのも、先生方の患者さんへの説明の丁寧さ、保健師の方々の啓蒙活動や住民の健康意識の高さだと思いました。

最後に、町民全員で医療を支えていることでした。医師や看護師、保健師、薬剤師、理学療法士はもちろん、患者さんの家族(特にお孫さんに連れられて、診察室に入ってくる姿は印象的でした)はもちろん、隣の家の方が連れてきていました。昔から知っている人が多く、顔見知りが多いから安心して笑顔で過ごしている人の多さは忘れられません。

この機会を提供してくださった鹿児島大学離島へき地医療人育成センターの方々、朝戸先生をはじめとする朝戸医院のスタッフの方、沖永良部島の方々に出会えたこと、一生忘れません。大切な時間を提供していただき、ありがとうございました。この経験を活かして、どのような医師になるかを考えていきたいと思えます。どうもありがとうございます。

沖永良部島(朝戸班)コース 【良かった点・改善した方が良い点】

①ホテルタイセイアネックスでの打ち合わせ

【良かった点】

- ◆自己紹介などを通して、お互いについて少しではあるが、知ることが出来て良かった。
- ◆班毎の買い出しを通して、班のメンバーと仲良くなる一歩を踏み出すことが出来た。

【改善した方が良い点】

- ◆ホテルがもう少し分かりやすい場所だと良かったと思います。
- ◆軽食を食べながらでも、お互いにきさくに話せる時間を少し設けても良かったのかなと思う。

②行きのフェリー

【良かった点】

- ◆夜をはさみ、寝る時間も確保できたので良かった。
- ◆フリーな感じで、学生同士、また先生方と交流をすることができて良かった。

【改善した方が良い点】

- ◆離島実習メンバー全員で貸し切り部屋を一部屋借りてあると、時間や場所を気にせず、もっとお互いに仲良くなることができた気がする。

③実習先(医療機関・行政機関)

【良かった点】

- ◆非常に親切にしてくださり、大変過ごしやすいかった。
- ◆ご飯がおいしかった。

【改善した方が良い点】

- ◆もう少し朝戸先生と話す時間を自分から作っているんな話を聞けたら良かった。

④宿泊施設(各地施設)

【良かった点】

- ◆ごはんがとてもおいしかった。
- ◆設備が整っており、全く不自由を感じなかった。
- ◆朝起きて支度をして、扉を開けると実習先があること。

【改善した方が良い点】

- ◆病院内なので、夜など音を立てないように気を使った。

⑤地域診断実習(観光)

【良かった点】

- ◆地元の人と話したり触れ合う機会があったので、その土地の文化を観光で行ったときよりも近い距離で感じられた。
- ◆沖永良部島すべてを堪能することが出来た。
- ◆先生が島のことをよくご存じだったのでいろいろな場所に連れて行っていただき、お話も聞けて良かった。

【改善した方がよい点】

- ◆わりと観光の場所が多かったのは島をよく知れたという意味では良かったと思うが、学生が毎日の実習で疲れているので、少し余った時間を休憩に充ててもいいのかなと思った。

⑥参加費用

【良かった点】

- ◆ちょっと高い気もするが、貴重な経験ができたので、順当な金額だと思う。
- ◆適度であった。

【改善した方がよい点】

- ◆鹿児島に行く費用は自費なので、その分がもう少し明確に書かれている方が大体いくらかかるということが分かりやすかったのかなと思う。

⑦報告会

【良かった点】

- ◆他の班の実習先がどんな感じか分かったので、自分たちが実習した先の特徴を理解しやすかった。
- ◆時間に余裕がなくなったが、班の発表時間に制限をつけられなかったところ。

【改善した方がよい点】

- ◆みんな疲れている様子だったのもあり、若干発表時間が長い気がした。10分くらいでも良いと思う。
- ◆「この内容は特徴的だから盛り込んで」みたいな指示があれば他の班も良い学びになったと思う。

⑧実習全般

【良かった点】

- ◆先生方も一緒に観光したり、他大学の生徒とともに実習やBBQに行ったりできたのは大変勉強になった。
- ◆先生方が天気を調べてくださったり、欠航になった船のその後の手配に尽力している姿は心にしみた。
- ◆全国のやる気に満ち溢れた学生と交流することができた。
- ◆島を堪能出来た。持ち物チェック表などが送付されたファイルにあったのが助かった。

【改善した方がよい点】

- ◆どこからどこまでのチケットをご用意していただけるのかが少し分かりづらかった。
- ◆事前に書く文章(島で何がしたいかなど)を誰向けに書くかあらかじめ知りたかった。

沖永良部島2(大蔵班)コース

Map





Member List



  いぶすき
指宿 りえ
鹿児島大学
国際島嶼医療学分野

  きむら あきら
木村 堯
東京医科大学 4年生

  みずさき てった
水崎 徹太
群馬大学 4年生

  こうだ なぎさ
向田 凪沙
東京慈恵医科大学 4年生

連絡先

指宿りえ (携帯) 090-2713-2706
(PCメール) iburie@m2.kufm.kagoshima-u.ac.jp

離島へき地医療人育成センター
(電話) 099-275-6898
(メール) ecdr-office@umin.ac.jp

医療法人英世会 大蔵医院



診療所外観



院長 大蔵英世 先生



大蔵 聡 先生

実習施設情報

所在地	〒891-9214 鹿児島県大島郡知名町知名16-2
施設長	大蔵 英世
実習担当者	名前 : 大蔵聡 連絡先 : 0997-93-5033
診療科目	内科、胃腸科、循環器科、小児科
診療時間	平日 午前8:30～午後12:00、午後2:00～午後5:00 土曜 午前8:30～午後0:00 休診 日曜、祝祭日
病床数	17床
スタッフ	医師2人、看護師7人、栄養士1人、事務4人、給食3人
設備	CT、エコー（2台）、レーザー、上下内視鏡、レントゲン、ホルター心電図
院長からのメッセージ	特殊なことはやっていません。標準的家庭医を目標としています。

実習施設の特徴・実習内容

地方の平均的家庭医として何でも診療しています。診療の内容もですが、診療のスタイル・やり方を見て下さい。広く浅く、エラーを少なく診療する努力をしていることが理解できると思います。

能力を超える無理をしないよう守備範囲を守るように心がけています。



8/1(土)

14:00

ホテルタイセイアネックス(2号館Aホール) 集合**オリエンテーション開始**

事務手続きをして、班ごとに着席

(旅費の徴収・領収書発行、誓約書、保険の説明・料金徴収)

実習説明

自己紹介(1人3分程度)

デジタルカメラの貸出

全体写真撮影

16:00

夕食・朝食の買い出し

16:30

貸切バスで鹿児島新港へ移動

18:00

鹿児島新港発(フェリーで移動)

～船中泊～



8/2(日)

11:30

和泊港着**地域診断実習開始**

観光の時間です！

実習前に観光地などを調べて、

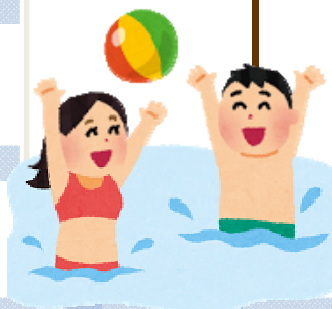
訪れてみたい場所を考えておくとスムーズに進みます。

遠慮せずどんどん意見を挙げてください！

綺麗な海は必須ではないでしょうか。

天候に左右される実習ですので、晴れのを機会を逃さないよう海水浴は先にしていた方が良いでしょう。

～ビジネスホテルパラダイスinn沖永良部 泊～



8/3(月)

終日

大蔵医院にて実習

実習先の詳しい情報は別頁に掲載。

～ビジネスホテルパラダイスinn沖永良部 泊～



過去の実習の様子

8/4(火)

終日

フローラルホーム花の家にて実習

小規模多機能型居宅介護施設。

大蔵医院と連携してきめ細かい医療介護サービスの提供に努めている施設です。

～ビジネスホテルパラダイスinn沖永良部 泊～



過去の実習の様子

8/5(水)

終日

大蔵医院にて実習

～ビジネスホテルパラダイスinn沖永良部 泊～



訪問看護の様子

8/6(木)

地域診断実習

観光はみなさんで考えてください。
引率の先生方は沖永良部をよくご存じなので、オススメを
聞くのもあります！

14 : 30

和泊港発

奄美大島に向けて約6時間の船旅です。

20 : 25

名瀬港着

ホテルニュー奄美にチェックイン後
奄美大島コース、徳之島コースと合流

21 : 00

報告会準備（鹿児島県立大島病院にて）



ケイビング(洞窟探検)

～ホテルニュー奄美 泊～

8/7(金)

08 : 30

ホテルニュー奄美発

貸切バスで鹿児島県立大島病院へ移動

09 : 00

報告会

場所：鹿児島県立大島病院会議室
時間：各班の報告20分、全体討論30～60分

12 : 00

地域診断実習

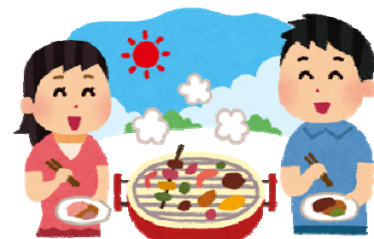
奄美大島北部を中心に観光します。
詳しくは前頁に掲載。

18 : 00

バーベキュー（ばしゃ山村）

21 : 00

バーベキュー終了予定



～ホテルニュー奄美 泊～

8/8(土)

08 : 00

ホテルニュー奄美にて解散

朝から自由行動。
奄美を満喫するもよし！
その他の離島や沖縄に足をのぼしてみるもよし！





ビジネスホテル パラダイスinn沖永良部

住所	鹿児島県大島郡知名町知名455
TEL	0997-84-3655
設備	全室禁煙 (シングルタイプ) テレビ・シャワー・トイレ・エアコン・歯ブラシ アイロン(貸出)・シャンプー・リンス・ボディソープ カミソリ・ドライヤー(貸出)・フェイスタオル・バスタオル ズボンプレスサー(貸出)・インターネット可・Wi-Fi ロビーに、コインランドリー・ポット・冷蔵庫・自動販売機



外観



室内の様子

実習後の感想



「また会う日まで！」

沖永良部島(大蔵班)コース:東京医科大学4年 木村 堯

実習期間の1週間は矢のように過ぎ去り、かけがえのない思い出となっています。この全国離島実習のポスターを見つけたときは直感的におもしろそうだと感じ、「どうせなら一番遠い島に行こう!」と思い沖永良部島コースを選択しました。沖永良部島は聞いたこともなかった島でしたし、そもそも離島に行ったこともなかったので楽しみ半分、不安半分の状態でこの実習のメンバー、先生方との顔合わせの日を迎えました。いざ自己紹介も済むとやはり皆さん全国から個人的に応募してきた強者(暇人?)のようでコミュ力の高い人ばかりですぐに打ち解けられました。フェリーまで行くバスの中でも、フェリーの中でも、夜中まで笑って話し続けていられたのはひとえにメンバーの人柄の良さがなせる技だったと思います。

大蔵医院での実習はポリクリ的な実習ではなく、医院をどうやって経営していくかなど医師としていかに食べていくかということについて多くのお話をいただいた気がします。医療と行政との関わりや診療報酬の話、また沖永良部島全体でどのように医療従事者が連携して島の医療を担っているかなど伺いました。他の島まで患者を輸送するには時間もかかり、患者の負担も大きいので開業医であるのにCTがあつたり、自身の専門の科にとらわれず幅広く患者を診察していたりする様子は驚きでした。また、大蔵先生が経営されている老人ホームでの実習では血圧と体温を測定した後は認知症予防の活動のお手伝いをしたり、昔の話を聞いたりして過ごしました。80歳、90歳は当たり前なのに元気な方が多かったと思います。次回沖永良部島に行くときにまた会えることを願っています。

大蔵医院での実習以外の時間は沖永良部島を観光し、夜は大蔵医院でのBBQ、朝戸医院でのBBQに参加したりして毎日充実した日々を過ごすことができました。自分の中で強く印象に残っているのはこの島の海が透き通っていてとても綺麗だったことです。これが観光地化されていない、自然そのものの海の姿なのかなと感じました。フーチャ岬からウミガメを見つけたことも人生初のことで嬉しかったです。先生方に連れて行っていただいたお店ではヤギ汁とか、あおさのてんぷらとか、トビウオの焼き魚とかこれまで食べたことのないものもありましたがおいしかったです。この島でお酒といえば黒糖焼酎でした。焼酎の匂いもそこまで強くなかったからだと思いますが、飲みやすかったです。これから友達に勧めてみようと思います。

今回の離島実習を経験して自分の中で医師としてのあり方が変わったような気がします。患者との関係作りが治療の上で非常に重要なのだと改めて感じました。仕事として医師をする以上、いかにしてお金を稼いでいくかというなかなかコアな話も聞くことができました。大蔵先生の生き方とその経験を自分のこれからの進路に役立てていきたいと思います。実習に参加して本当に良かったです。ありがとうございました。

みんな、また会おうね!!

実習後の感想



「離島実習レポート」

沖永良部島(大蔵班)コース:群馬大学4年 水崎 徹太

はじめに、私はまだ大学の授業で臨床の内容が終わってないのにこの実習に参加させていただきました。実習に参加した理由は、「離島での医療」について学ぶためです。実際の実習では、医療以外の部分に触れる機会が多かったです。正直、実習に参加するまでは沖永良部島という島があること自体を知らなかったのですが、今回の実習で一生忘れることができない場所になりました。一面のさとうきび畑と夜の星空、綺麗な海でのんびり漂う海亀、一緒にさいさい節を踊った優しくのんびりとした島の人々。自分にとっては忘れられない風景ばかりです。

実習では大蔵医院にお世話になり、実際の診察を見学させていただきました。大蔵医院の設備は想像以上に充実しており、CTまでありました。医院長の大蔵先生は博識で、医学的知識はもちろんのこと、哲学や物理学にも精通していらっしゃいました。先生とお話をして感じたことは、医師として大事なことは医療の提供だけに留まてはいけないということだと思います。先生主催のバーベキューでは、先生が運営しているフローラルホーム花の家の職員さんだけでなく、地元の消防隊や、役場の福祉課の方までいらっしゃっていました。先生の地元が沖永良部ということもありますが、地域の人とコミュニケーションを計り、地域に寄り添う大切さを学びました。

また、実習では実際の離島医療らしさを見ることもできました。呼吸苦があっても本人の意思で入院せず、実習中の3日間毎日通院されていた方。特に体の不調はないのだが、先生とお話をしに来られた方。先生は必ず水銀柱の血圧計で血圧を計り、聴診を行います。先生自身、これらの動作は「儀式のようなもの」とおっしゃっていました。先生は常にがんや大病を見過ごさないよう、診察をされていました。離島において、急な病変は大敵です。沖永良部島には徳洲会病院もありますが、緊急の場合には沖縄まで搬送されることもあります。先生は大きな病気の患者を増やさないことが大事だと考えていました。

この実習を通して、他の大学の人たちとの交流、優しい鹿児島大学の先生陣と出会うことができました。また、貨客船での移動では、島の物資の輸送や人の行き来を間近にみることもできます。船酔いは辛いですが、甲板で他の大学の人と様々なことを語りあったり、トビウオの跳ねる様をみたり、星空を眺めたりすることもいい思い出です。本実習を通して、当然ながら離島の医療を目の前でみたことは、今後の医学生としての意識の変化を生み、人間としても成長したように感じました。改めてこの実習に参加してよかったです。お世話になった方に感謝しても足りないほどです。ありがとうございました、また沖永良部に行く日まで！

実習後の感想



「第8回全国医学生離島実習 —沖永良部島大蔵医院にて学んだこと—」

沖永良部島(大蔵班)コース:東京慈恵会医科大学4年 向田 凧沙

今回、貴大学の離島実習プログラムに参加させていただいたきっかけは、慈恵医大の先輩から当プログラムのお話を聞いたことでした。医療の話、というよりも、全国の医学生の参加者や貴大学の先生方、また離島の方々と貴重な出会いについての話をたくさん聞いての参加だったため、全く初対面の方々ばかりでしたが、何の不安もなく臨むことができました。実際、参加を終えて、これからの人生を歩んでいくうえでヒントになるような出会いや経験がたくさんできました。

沖永良部島の大蔵医院は、第一希望でした。選んだ理由は、2つあり、①離島に行くなら一番遠い島に行こうということと、②大蔵医院の紹介文に、「何でも診療している家庭医としての診療」をみることができる、と書いてあったからです。大蔵医院での実習は、主に外来の見学でした。患者さんは小さいお子さんから、お孫さんと一緒に来ているお年寄りまで、本当に幅広い年齢層でした。また、疾患も多様で、町内の夏祭りの直後ということもあってか、下痢や発熱の患者さんもいれば、リウマチの患者さんも多く、また、那覇や本州の大きな病院のセカンドオピニオンとして訪れたパーキンソン病の患者さんもいて、幅広い知識がなくてはできないと思いました。医院長先生は患者さんの年齢や疾患だけでなく、性格も読み取って、患者さんに接し、患者さんの不安を取り除いて安心させることを外来では大切にされていました。そんな医院長先生が教えてくださったのは、Accept, Support, Reassurance, +嘘という4箇条で、その意味は、まず患者さんの訴えを受け入れ(Accept)、薬の処方などにより支え(Support)、不安を取り除いて安心させる(Reassurance)ことが大事で、そのためにはたまには嘘も相手によっては大事だよ、という内容でした。これを実践するには患者さんの性格を、きちんと把握してなくてはいけなく、実際医院長先生は患者さん一人ひとりととてもよく見て理解してらっしゃいました。見学最終日には、小規模多機能型居宅介護施設である、フローラルホーム花の家にて、終日実習させていただきました。この施設では、泊りの患者さんと通いの患者さんがいらっやあって、患者さん一人ひとりに合わせた介護を行っていました。提供される食事はすべてスタッフさんの手作りの家庭的なものばかりで、おやつのお菓子も沖永良部で昔から食べられている、黒糖の焼き餅や黒糖でした。民謡も常に流れていて、みなさん自然と踊りだしていたのが印象的でしたし、スタッフの方は「食事係りが一番つらいのよ」と何回も言いながら、常に笑顔でいらっやあって、沖永良部愛があふれていました。

大蔵先生には医療のこと以外にも、経営学や物理学、楽しく生きろ！といった人生観もたくさんお話していただきました。また、沖永良部で出会った方はみなさん本当に心が優しく、その中心に大蔵医院はあり、医院長先生も副医院長先生も町の皆さんから慕われていましたが、医療も町の運営などにおける関わり方も、自分のできる範囲を見極めて、その範囲を超えないで関わっていらっやった姿勢はとても勉強になりました。

今回の離島実習ではとても貴重な経験をたくさんさせていただき、言葉では言い表せ切れませませんが、離島実習以後に強く思うようになったことを挙げるとするならば、自分の許容範囲を正確に認識し、人と接することで、相手のこともよく理解できるようになること、そして、勉強は医学でも哲学でも、自分の許容範囲を広げる為という局面を持っているということです。今回様々な方のお世話になったと、たくさんの方に会えたこと、たくさんの貴重な経験への感謝を忘れずに、9月からの病院実習やこれからの勉強を頑張りたいと思います。

沖永良部島(大蔵班)コース 【良かった点・改善した方が良い点】

①ホテルタイセイアネックスでの打ち合わせ

【良かった点】

- ◆夕飯の買い出しをグループで行ったことにより、初対面の緊張が取れた。
- ◆鹿児島大学の先生方が積極的に話しかけてくださったので、会話がしやすかった。
- ◆開始時間が14時からだったので、午前中に鹿児島観光ができた。

【改善した方が良い点】

- ◆階段が多かったことが、大荷物には少し辛かった。

②行きのフェリー

【良かった点】

- ◆甲板や食堂で先生方含めて、みなさんとお話できたことがとても良かった。
- ◆揺れもほとんどなく、船旅を存分に楽しむことができた。

【改善した方が良い点】

- ◆甲板にベンチがあったら完璧だった。
- ◆船の手すりに寄りかかったら油が付いたらしく、1着服をダメにってしまった。

③実習先(医療機関・行政機関)

【良かった点】

- ◆島の人と交流できたこと
- ◆外来で、心音や呼吸音を実際に聞かせていただいたり、英世先生のお話をたくさん聞いた。
- ◆介護施設で、バイタルを測らせていただいたり、利用者の方と一緒に作業できた。
- ◆大蔵先生がとても優しく、どんな質問をしても答えてくださった。

【改善した方が良い点】

- ◆ちょっとした手技はやってみたかった。
- ◆入院病棟の見学もできたら、なお良かった。

④宿泊施設(各地施設)

【良かった点】

- ◆大蔵医院と近いのも利点。
- ◆ロビーも部屋も清潔感があり、綺麗で良かった。
- ◆それぞれ個室で、テレビ、エアコン、机があり、シャワー・トイレが別と至れり尽くせりだった。
- ◆みんなで集まれるホールがあり、洗濯、冷蔵庫もあったので、何不自由なく生活できた。

【改善した方が良い点】

- ◆シャワーのお湯が、お湯しかでなかつたり、水しかでなかつたりしたのが辛かった。

⑤地域診断実習(観光)

【良かった点】

- ◆海が綺麗だった。手つかずの自然だった。
- ◆ケイビングは参加した方がいい。
- ◆ほぼ全ての沖永良部島の名所に行けて満喫できた。奄美では歴史も学べて良かった。

【改善した方がよい点】

- ◆先生方にスケジュールリングや車の運転を任せっきりにしてしまい、もう少し自分達でリサーチして行くべきだったと思った。

⑥参加費用

【良かった点】

- ◆40000円は妥当なところだと思う。
- ◆募集要項とのずれもあまりなく、良心的な金額で、良かった。

【改善した方がよい点】

- ◆フェリー代、宿泊費代は公表してもいいのではないか。

⑦報告会

【良かった点】

- ◆他の島との違いに気づけた
各島の報告や、班でのパワーポイントの作成を通して、本実習の整理ができた。
報告会で、他の班の実習内容が聞けてよかったです。

【改善した方がよい点】

- ◆各グループ、もう少しコンパクトな発表でも良かったと思う。
- ◆報告会のためのプレゼンテーションを準備する時間をもう少し欲しかった。

⑧実習全般

【良かった点】

- ◆先生方、島の皆さん、全国の医学生と会えたこと全国の医学部生が集まって、一緒に様々な経験ができ、とても貴重な体験になった。
- ◆医療だけでなく、人生観も学びました。
- ◆船での移動が楽しかった。

【改善した方がよい点】

- ◆持ち物に水中メガネを書いて欲しい。
- ◆担当していただいた先生以外の先生と、もっと奄美のBBQでお話しできたら良かった。

参加学生による「一起学歌集」第8回夏季全国医学生離島実習

(各々学生に離島実習の思い出を俳句・短歌にしてもらいました)

奄美大島コース(瀬戸内班)

作品	氏名	
もう一度 奄美の海に 抱かれない	防衛医科大学校5年	池上 侃
加計呂麻の 海がどこより きれいだな	近畿大学5年	丹羽 弘高
忘れえぬ ガジュマルの木に 見守られ 人生初の 熱中症	秋田大学4年	松本 奈津美

奄美大島コース(住用班)

作品	氏名	
友と師と 交わす盃 更ける夜 つかは共に闘う仲間か	金沢大学5年	鄒 明憲
大島の 素敵に触れた 八日間	埼玉医科大学5年	多賀谷 亮甫
おいおばあ 心の声聞く 聴診器	新潟大学4年	小松崎 早子

徳之島コース

作品	氏名	
しまんちゆの魅力溢れる徳之島、1度いかねば人生損也	鳥取大学5年	岡本 亮
徳之島 また帰りたい 夢の島	横浜市立大学5年	関井 隆介
きゅら海も おいしい酒もあるけれど 人の徳にぞ勝るものなき	東邦大学4年	岸 愛奈

沖永良部島コース(朝戸班)

作品	氏名	
暮らしてる みんなで創る 地域医療	島根大学5年	若槻 卓成
あたたかい 気持ちになれたよ ありがとう	宮崎大学5年	長友 美佳
歌うたい 思い出すのは 若き日々	埼玉医科大学4年	高橋 聖彦

沖永良部島コース(大蔵班)

作品	氏名	
いつまでも 永良部の海を 残したい	東京医科大学4年	木村 堯
海亀と 風に揺られる さとうきび 一夏の旅 忘れ難し	群馬大学4年	水崎 徹太
広い海 多くの知識で 人に触れ 自分を広げて 相手を笑顔に	東京慈恵会医科大学4年	向田 凧沙